

V 教育研究

1 教育研究のテーマ

思考力・判断力・表現力を高める授業の創造
～主体的な学びを通して～

平成25年4月、三原市北部の四つの小学校が統合し新しい久井小学校として久井中学校敷地内に新設された。これにより、久井小学校・久井中学校は施設一体型連携教育校として新たなスタートを切り六年目を迎えた。平成26年4月、二つの市立保育所が統合され久井認定こども園が開園したことから、本校の児童生徒は就学前から中学校卒業までの15年間をほぼ同じ集団で過ごすこととなった。そのため、認定こども園と小学校・中学校に関わる職員は、15年目の春を迎える時の子供像を共有し、一貫した教育を推進していく重要性が一層増している。

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子どもたちは、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観をもつ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

そのため、一人一人が他者の考えや意見を受容したり、尊重したりしながら、よりよい考えや価値を生み出していくための思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。つまり、一人一人の「自分とは異なる他者を認識し、理解する」「他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する」「他者との協調、協働を図りながら思考を深めていく」といった能力を高めていく必要があると考える。

昨年度、本校では「平成29年度学力向上推進地域」の指定を受けた。主体的な学びを促進するため、小学校と中学校が連携して児童生徒の学力の向上を図るために、教科指導と生徒指導の両面における指導方法等に係る実践的な研究を進めた。(別紙『報告資料』, 研究成果物1・2・5) そこから明らかになった研究の成果と課題をもとに今年度の研究を推進していく。

2 主な研究教科及び領域名

全教科・全領域を研究対象とするが、小学校では算数科、中学校では5教科を中心にすえて研究を進めていく。

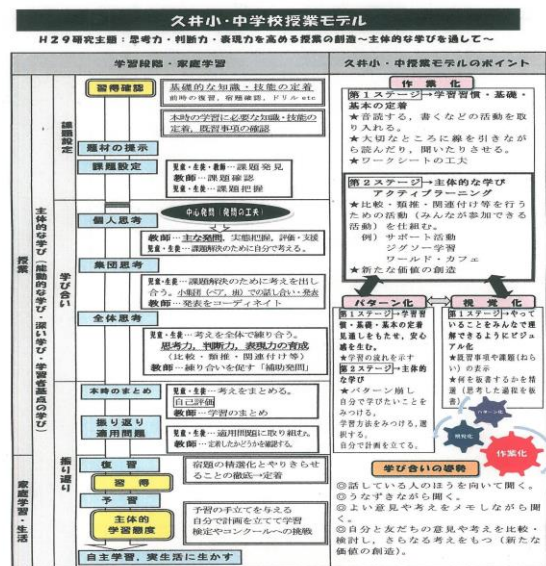
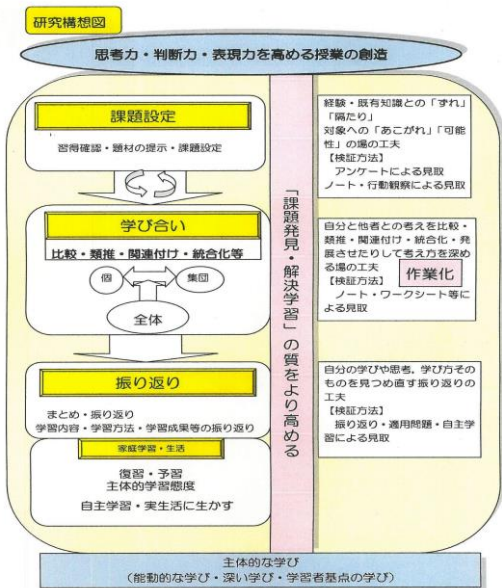
3 研究仮説

主体的な学びのある授業を創造すれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

研究の方向

(1) 授業モデルに基づいた授業研究

研究構想図をもとに授業モデルを作成した。1時間の授業の中では、課題設定(めあての工夫)・学び合いの工夫・振り返りの工夫を行い、特別支援教育の視点(作業化・視覚化・パターン化)を生かした授業についても工夫する。学び合いの場面では、作業化を取り入れ、ペア・グループ・集団で比較・類推・関連付け・統合化等行う中で思考を深める工夫を行う。



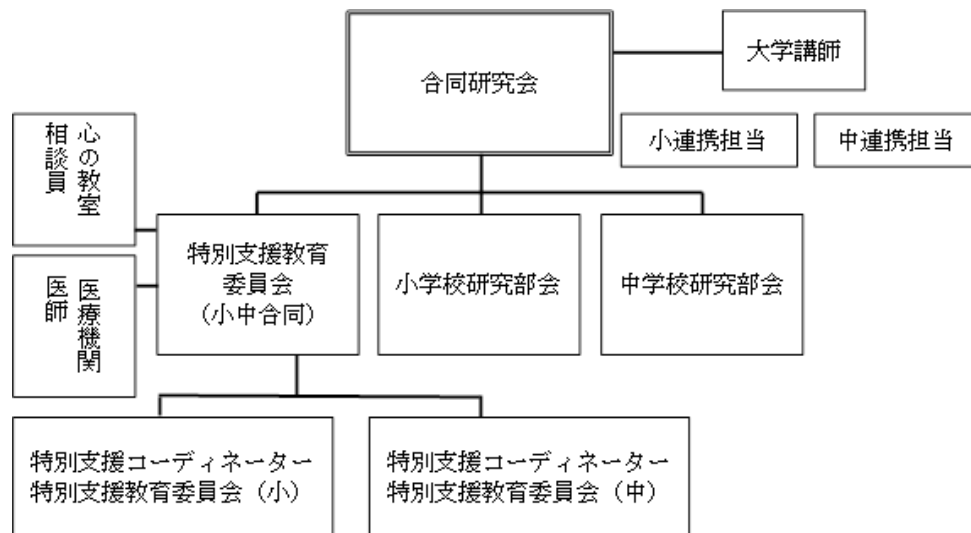
(2) 「課題発見・解決学習」の質を高める

一人一単元の開発をした「課題発見・解決学習」の実践と、その質を寄り固めるために授業研究に取り組む。

(3) 「主体的な学び」を焦点化する

昨年度焦点化した「自分で選択させる」「日常生活との結びつきをもたせる」ということを授業に盛り込み、共通意識をもって「主体的な学び」を目指す。

(4) 研究体制



(5) 落ち着いて学習できる教育環境づくり

○視覚的な情報の精選

前面掲示をしない。

連絡黒板・電子黒板など…未使用時はカバー

視覚化

○教室内の整理整頓

机やいすの位置をテープで床に示す

○机上の整理整頓・ロッカーの中の整理整頓



【写真1 ロッカーの中】



机の位置に印

【写真2 机・いすのテープ】

4 研究の指標

- ・「基礎・基本」定着状況調査
- ・全国学力・学習状況調査
- ・標準学力調査
- ・生徒アンケート
- ・授業記録

5 達成目標

①「基礎・基本」定着状況調査

県平均以上

通過率30%未満の児童生徒の減少

②全国学力・学習状況調査

全国平均以上

③標準学力調査

全国平均以上

④調査問題（全国学力・学習状況調査をもとに作成）

県平均以上

④その他

- ・すべての教科において1回以上の課題発見・解決学習を取り入れる。